日本建築学会構造系論文集ならびに
日本建築学会計画系論文集応募規程

1. 内容
建築に関する学術・技術・芸術についての下記の論文及び
質疑討論とする。①)

(1) 投稿論文①)

a) 論文は未発表のものに限る。④)

但し、2回記載するものは、未発表の
ものとみます。

b) 論文は建築に関連した内容を有し、次のカテゴリー
のいずれかに該当するものとする。
カテゴリーI 独創性のある萌芽的で、発展性
の期待できるもの。③)
カテゴリーII 新しい知見を与える有用性、実用性
に富んだ実験・実験・調査等の研究で、
信頼性が高く、学術的、技術的に価値
のあるもの。
カテゴリーIII 独創性のある理論的又は実証的な
研究で、完成度の高いもの。

(2) 質疑討論は、掲載された論文について、掲載後1年以内
に投稿することとし、誌上にて行う。②)

2. 既発表のものでも応募できる範囲

(1) 大学学術講演会、支部研究発表会で発表したもの。

(2) シンポジウム、研究発表会、国際会議等で発表したもの

(3) 大学の紀要、研究機関の研究所等で部内発表したも
の。

(4) 国、自治体、業界、団体からの委託研究の成果報告書。

3. 連続する応募の取扱い

(1) 連続して数週間発表する予定の場合は、各編がそれぞ
れ完結したものとする。この場合の発表は主題を適切に
表したものとし、総主題をサブタイトルとする。

(2) 連続した数編を応募する場合には、ききの総会査読終
了後、総編が受理される。

4. 応募資格

会員会員（個人）とする。

5. 原稿

(1) 論文および質疑討論は、和文・英文のいずれでもよ
い。①)

(2) 論文および質疑討論の本文の前に英文要旨および
キーワードを添える。⑦)(①)

(3) 論文は、刷り下5頁以内を基準とし、超過頁は3頁を
限度とする。⑦)(①)

(4) 質疑討論の詳細は、「執筆要領」を参照する。⑥)(①)

(5) 最終の原稿の作成時、採用原稿の字句または文章の
書き足し、書き直しは認めない。⑥)(①)

6. 原稿の提出

(1) 原稿は、執筆要領に沿って作成したもの3通（コピー）
を提出する。

採用決定後、最終の原稿を1通提出する。③)(①)

(2) 原稿の提出においては、「論文」、「質疑討論」の区別、
査読希望の論文のカテゴリーおよび下記の査読希望専
門研究部門名を所定の用紙に明示する。③)(①)

「材料施工」「構造」「防火」「海洋」「情報システム技
術」「環境工学」「建築計画」「都市計画」「農村計画」
「建築経済・住宅問題」「建築歴史・芸術」「教育」

なお、原則として、「材料施工」「構造」「防火」「海洋」
「情報システム技術」は構造系論文集、「環境工学」「建
築計画」「都市計画」「農村計画」「建築経済・住宅問題」
「建築歴史・芸術」「教育」は計画系論文集に掲載される
が、他系に掲載を希望する場合は所定欄に明示する。③)

(3) 原稿の提出期日は、各月10日締めとする（8月は休
会）。⑥)

(4) 原稿が本会に到着した日を原稿受理日とする。原稿受
理日が当月の10日以前の原稿を当月より査読を開始す
る原稿とする。⑥)

ただし、内容の訂正などを指摘された原稿で本会発送
日より2ヶ月以内に改訂原稿が返送されない場合は、最
初の受理日は無効とし、改訂原稿が本会に到着した日を
原稿受理日とする。

(5) 原稿提出の際、データベース登録原稿を添付する。⑥)

7. 論文の採否

(1) 論文の採否は本会論文集委員会が査読の判定基準に
基づいて決定し、著者に通知する。⑥)

(2) 論文については査読の判定基準は以下の通りであ
る。⑥)
a. 全般的な査読の項目

a-1) 提起した問題、導入した概念や方法、発見した事実や法則の新規、独創性および得られた結果の学術的および技術的価値性、有用性。

a-2) 論旨、論旨の妥当性・明快性、方法（実験、調査等）とその結果の信頼性・再現性および研究展望、研究の位置付け・適切さ。

a-3) 表現、用語や関連文献引用の適切さおよび商業主義からの中立性。

b. 論文をカテゴリーに応じて、つぎの基準で査読する。

b-1) カテゴリーIの論文については、萌芽性、発展性、独創性を重視し、その信頼性と完成度については評価するが過度に重視しない。

b-2) カテゴリーIIの論文については、学術的および技術的有用性、実用性を重視し、その新規性と信頼性、完成度についても評価する。

b-3) カテゴリーIIIの論文については、独創性、学術的価値性・有用性、信頼性を重視し、完成度も評価する。

(3) 論文のカテゴリー区分は、査読時の評価判定に用い、論文集への掲載時には記載しない。

(4) 査読の結果、「採用」の論文には、採用決定日を明記する。

(5) 査読の結果、「再査読」の場合は、修正された原稿について改めて査読を行う。

(6) 査読の結果、「不採用」の場合で、その「不採用」の理由に対して、論文提出者が明らかに不妥と考えられた場合には、不妥とする理由を明記して、本会論文集委員会委員長あてに異議申立てをすることができる。

8. 質疑応答の採否

質疑応答の採否並びにその取消いは論文集委員会が行う。

9. 著作権

(1) 掲載論文・質疑討論の著作権は著者に属する。

本会は編集出版権をもつものとする。

(2) 著者は掲載論文・質疑討論の抄写権を本会に委託するものとする。

10. 論文集の体裁

論文集の刷り体裁をA4判とし、本文が8ポイント程度となるようにする。

11. 登載料・超過頁料・カラー印刷掲載料

採用された論文は本会論文集掲載料として、版下原稿の場合10,000円、レイアウト原稿の場合は30,000円を徴する。本会の刷上り頁数が基準頁数の5頁を超過した場合は超過頁料として、次の方針を加算する。

6頁の場合は10,000円、7頁の場合は35,000円、8頁の場合は75,000円。

また、カラー印刷による掲載は、著者の申し出により行うことができる。カラー印刷に要する費用は著者の負担とする。

12. 受付住所

論文および質疑討論の別刷は有料にて発送する。

13. 送付先

論文、質疑討論の原稿および異議申立ての文書は、下記宛に送付する。

〒108 東京都港区芝5丁目26番20号
日本建築学会 論文集委員会

付表 論文の評価項目

<table>
<thead>
<tr>
<th>カテゴリー</th>
<th>I</th>
<th>II</th>
<th>III</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>独創性</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
<tr>
<td>哲学性</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
<tr>
<td>発展性</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
<tr>
<td>技術的有用性</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
<tr>
<td>学術的価値性・有用性</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
<tr>
<td>信頼性</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
<tr>
<td>完成度</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
<td>O</td>
</tr>
</tbody>
</table>

[例] 評価の対象とする
[例] 評価するが、過度に重視しない

注) 著者が複写権を日本建築学会に委託しても自分の論文を自らの用途のために複写することについては、制限はない。